

## ■フランス：送電系統運用者 RTE、2018 年夏季の電力需給見通しを発表

フランスの送電系統運用者 RTE は 2018 年 5 月 25 日、2018 年夏季の需給見通しを発表し、猛暑時を含め、電力の安定供給は確保されるとした。同見通しでは、平年気温の場合には電力需要のピークを 5,500 万 kW と予想し、この需要を 2,000 万 kW 上回る供給力が常に確保されるとした。一方、猛暑の場合（2017 年 6 月 22 日に記録されたような）については、ピークを 6,000 万 kW と予想し、輸出電力分をカウントしても 400 万 kW の予備力が確保されるとしている。ただし、フランスにとって問題となるのは夏休み期間中の需要の落ち込みに伴う余剰電力の発生である。同期間においては、冷房需要を考慮しても年間を通して最も電力需要が低くなる。2018 年は、電力需要が最も落ち込むと見られる 8 月中旬の需要はピーク時でも 3,000 万 kW まで下がり、夏休み期間以外のピーク時との差は 2,000 万 kW を超すと予想されている。さらに問題となるのは近年、太陽光や風力設備が増大していることである。2018 年夏季には、風力 1,400 万 kW（2017 年同期比 170 万 kW 増）、太陽光 790 万 kW（同 90 万 kW 増）となる。加えて、原子力も炭素偏析問題に伴う検査で停止していたユニットが徐々に復帰し、「2016 年比で 200~400 万 kW 増」（RTE 開発部長の電話会議における発言）と予想されている。そのため RTE は、オフピーク時は電源側の出力調整に加えて最大 700 万 kW の輸出が必要としている。RTE は、あらゆる措置を講じても供給力が超過する場合は、一部の発電所の緊急停止などを実施せざるを得ないとし、さらに調整力の確保や輸出を推進する必要性を強調した。